

相馬中村神社



大手門の相馬野馬追お繰り出し(相馬野馬追執行委員会より)



参道の石灯籠は全て東側に転倒



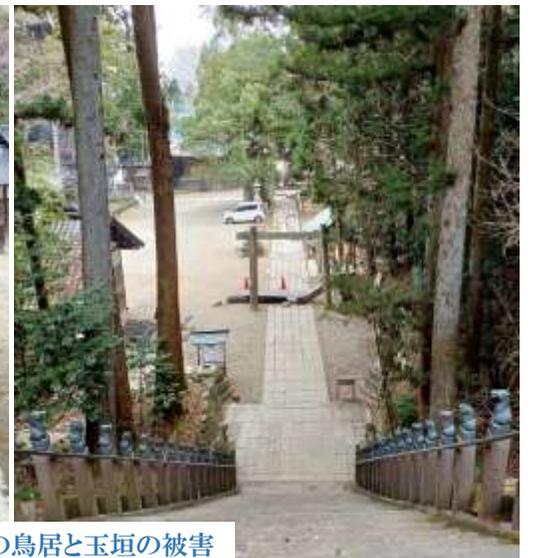
相馬神社玉垣も東西方向のみ転倒



昨年も今年も地震被害を受けた中村神社大手門



中村神社の鳥居と玉垣の被害



岩沼駅周辺および車窓からの光景



国交省仙台河川国道事務所岩沼出張所の門前にある水害記録



震災遺構となった山元町の旧中浜小学校



双葉駅の西側空地に建設中の建物群



富岡駅のホームから防潮堤を遠望



岩沼の名所、武隈の松(左)と竹駒神社唐門(右)

津波警報発表時に車外へ出る場合

はしごを使わない場合 はしごを使う場合

乗降口に顔を下ろすことで降りやすくなります。 降りる際は、足元に十分注意して下さい。

避難はしごの組み立てや、降車の補助にご協力をお願いします。

線路に下りた際には右記の看板により避難場所まで避難してください。

お子さまや介助が必要なお客様へのご協力をお願いいたします

※災害時にお

常磐線電車内の注意事項の掲示



東北新幹線

3月16日に福島県沖で発生した地震の影響で、以下の新幹線に運休・区間運休が発生します。ご利用のお客さまには、ご迷惑をおかけし申し訳ございません。

3月22日(火)～当面の間運転計画

3月22日(火)～当面の間運転計画

東北新幹線 郡山～一ノ宮間 終日運休

秋田新幹線 秋田～大曲間 終日運休

山形新幹線 山形～新庄間 終日運休

状況により運休に併せて臨時ダイヤが実施されます

お知らせ

3月24日(木)以降

先日の福島県沖で発生した地震の影響に

常磐線は原ノ町～仙台間

臨時ダイヤにより運転
いたします

※臨時ダイヤは、駅頭掲示もしくはJR東日本のホームページにてご確認ください

※途中一部区間、運休を承として運転することがございます

ご迷惑をおかけいたしました大変申し訳ございません

JR

原ノ町駅構内に掲示された地震による臨時ダイヤの案内

おわりに(今回の視察旅行のまとめ)

はじめにも記させて頂いたように、東北大学災害科学国際研究所の遠田晋次教授が3月17日に配信された報告によって、今回の地震は震源の位置と規模が昨年2月13日に発生した福島県沖の地震と極めてよく似ていること、従って震度の強さと分布形状も互いによく似たものとなっていることの2点を把握した上で、昨年2月の地震でも現地の状況を確認させて頂いた桑折町と国見町を訪問し、今回の地震被害との比較を試みることに第一の目的であった。

桑折町と国見町における気象庁発表の震度は、今回の地震でも昨年と同様に、国見町の震度6強に対して桑折町は震度6弱であった。しかし、被害程度を見せて頂いた上での印象では、今回もまた桑折町の方が国見町に比して大きかった。これには地震計の設置場所の地盤環境によるところが極めて大きいと考えられるが、現在は観測手段を持ち合わせていないので、確認作業は現職の研究者諸氏にお願い致したい。桑折町の無能寺では幾つか貴重な体験談を伺うことができた。11年前、昨年、今回の揺れを比べると、今回の揺れが一番強かったこと、11年前の揺れは南から、今回の揺れは東から来たこと、タンス2竿が東に倒れたこと、土蔵の被害は今回が初めてであること等々。また別の婦人の話では、昨年の地震の後、転倒した墓石の多くは台座との間にホゾを入れる工事をしたので、今回は倒れなかったとのことであった。なお、この地域には墓石にホゾを用いる習慣はなかったことも確認させて頂いた。

今回の地震被害の特徴として、東北新幹線の高架橋上での脱線事故が社会的には最も注目されているようなので、第二の目的はこの新幹線脱線現場を見せて頂くことにあった。現場は白石蔵王駅から南方へ約2kmの地点にあって、在来線白石駅からタクシーを利用して現場を見せて頂いた。脱線した電車の撤収作業も大変そうであったが、高架橋の構造被害は一層深刻なものであった。新幹線を早期に復旧させなければとの社会的要請の大きさは理解できるとしても、高架橋の補強工事は簡単ではないものと見受けられた。1995年兵庫県南部地震以前に信じられていた“新幹線安全神話”はその後、幾多の被害地震によって覆されてきたが、今回の脱線事故について新聞は「けが人がいなかったのが奇跡のように思える。駅に近づき減速していたところに、非常ブレーキがかかったようだ。」と報じている。しかし逆に、ここから“最悪の事態”をどのように想定することが出来るだろうかと心配はつのるばかりである。

結局、3月28日の往路は郡山まで東北新幹線を利用し、その後は在来線を乗り継いで夕刻までに仙台に到着した。翌29日の2日目は仙台青葉城址で伊達政宗公の騎馬像と石垣の被害を確認させて頂き、そのあと常磐線を乗り継いで幾つかの被害地域を見せて頂く予定であった。しかし、目的を達成できたのは震度6強を記録した相馬市のみで、相馬駅から相馬市役所、相馬中村神社にかけての地域を約2時間見せて頂いた。特に相馬中村神社参道の石灯籠が一斉に東側に転倒している様は圧巻で、相馬市の震度が6強であることに納得させられた。また、相馬市役所が免震建物であったことは予想外であったが、建物周辺の小被害が想定内のことであるのか、それとも無被害となるようメンテナンスをしっかりとしなければならぬのかは不明のままである。

常磐線は電車の運行本数がかつとも少ない上に、地震の影響で臨時ダイヤによる徐行運転がしばしばで、乗り換え駅の岩沼駅と原ノ町駅では2時間もの待ち合わせ時間を経験した。公共交通機関を用いた1泊2日の視察旅行の限界でもあった。

最後に、今回の現地調査と被災地訪問に際して、市役所や町役場の職員はじめ、地元の様々な立場の方々に親切に対応して戴いた。また東北大学災害科学国際研究所の遠田晋次教授の研究資料を引用させて頂いた。さらに参考資料として東京新聞と河北新報の写真を転載させて頂いた。これらのご好意に対して心からの謝意を表したい。

付録 昨年の福島県沖の地震 (2021.2.13, M7.3)の調査結果

震度6強が観測された国見町の被害

国見町の街並みはJR藤田駅に近い丘陵上に位置しており、町役場が立地する軟弱地盤とは地盤条件が全く異なっている。震度6強と被害とが一致しないのは当然と思われる。



JR藤田駅



軟弱地盤に新設された国見町役場の庁舎



軽微な被害を生じた国見町文化センター



タワー階段床の剥離



文化センター隣りの大千寺墓地



町役場の震度計



本が落下した文化センターの書架



タワー階段床の剥離(鉄骨の補強は東日本大震災の時のもの)



大千寺の転倒墓石はごく僅か。とても震度6強とは考えられない





JR桑折駅



桑折町役場旧分庁舎の瓦屋根崩落被害



1ヶ月前に中学校跡地に移転したばかりの桑折町役場



被害はその殆どが屋根瓦とくに棟瓦の落下と墓石の転倒のみ

付録 昨年の福島県沖の地震 (2021.2.13, M7.3)の調査結果

震度6弱が観測された 桑折町の地震被害

住家の棟瓦と墓石の転倒状況
で見ると、被害は国見町よりも
桑折町の方が大きいと思われる



桑折町役場の震度計